

令和5年度 岡山県立西大寺高等学校 学校評価書

学校経営目標		重点目標と評価		
<p>新しい時代を生き抜く力を持った生徒の育成 ～自己肯定感を高め、進路目標に向かって主体的に学ぶ生徒の育成～</p>		<p>1 学びの環境を整備し、生徒の能力を最大限に引き出す。 (1)物理的・精神的環境を整え、生徒の心身の健全な成長を支援する。 (2)進路指導(=キャリア教育)体制を再構築し、生徒・保護者・地域の満足度を高める。 (3)地域の人的・物的資源を活用しながら生徒の挑戦を支援し、生徒の希望の実現に努力する。</p>		
		<p>2 生徒の思考力・判断力・表現力を高め、知識・技能の習得及び学びに向かう力の育成に努める。 (1)主体的・対話的で深い学びの実現を核とし、ICT機器も利用して授業力向上に努める。 (2)生徒の活動を肯定的観点から評価し、エビデンスに裏打ちされた教育活動を行う。 (3)総合的な探究活動等の充実を通じて、地域貢献意識や自己肯定感を高める。</p>		
		<p>3 小中学校・地域との連携を進化させるとともに、中学校向け広報活動の充実を図る。</p>		
該当する経営目標の番号	課・学科 学年等	具体的目標	具体的計画	達成基準
1	教務課	<ul style="list-style-type: none"> 新学習指導要領の実施に伴って発生する追加・修正等の必要な整備(内規、評価など各種業務)を行う。 業務の効率化を図るために、年間の業務計画の整理を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 新教育課程への移行に伴う内規や評価方法、各種書類の修正、教科書選定等の関連業務を正しく行う。 月に一回程度教務課会議を開催し、業務の進捗状況の確認と年間計画の作成を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 新教育課程の実施に伴って必要になる追加・修正等が、R5年度中に完成する。 年間10回程度の教務課会議の開催及び年度末に年間の業務計画が完成している。
	進路指導課	<ul style="list-style-type: none"> 『進路便り』等の広報紙、集会、CCTを通して、進路選択に関する基本知識や、多様な入試制度や変更点等タイムリーな情報提供を行うとともに、早期からの進路意識の高揚を図る。 受験に対応できる確かな学力を定着させ、国公立大合格者を増加させる。 学習活動を中心とした生活習慣の早期確立を図り、就職試験に対応できる学力の定着を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ア進路情報の効果的な提供 他課室や教科と連携して、学年集会、CCT、LHR、また面接や懇談を通してタイムリーな情報提供を行い、生徒が希望する進路の実現を可能にする。進学や就職に対する幅広い視野や将来に対する展望を持たせ、早期からの進路意識の高揚を図るため、『進路便り』各学年年間10回を目標に発行する。 イ教科指導力の充実 授業見学、研修、生徒からのアンケートなどを通じて、授業での指導力の充実を図る。 ウ家庭学習習慣を確立させる指導 予習、授業、復習のサイクルを確立させる。1日平均180分(1,2年)の家庭学習時間の確保を目指す。 エ個人指導の徹底 成績上位者の伸長、不振者への指導など、生徒個人に応じたきめ細かい指導にあたる。担任による個人面接において学習方法の指導を充実させる。学年団教員と協力して、面接・小論文指導などを行う。より高い進路実現に向けて、粘り強く最後まであきらめずに学習に取り組ませる指導を徹底する。 オ補習・土曜講座の運営 補習、土曜講座を通して、授業の補足と内容理解の深化を図る。 カ総合的な探求の時間(CCT)・LHRを利用した3年間を見通した指導体制の確立し、教員間の意思統一の基に、学年、学期ごとなどの長期、短期的な目標を設定し、実行、検証する。 キ保護者との連携 進路説明会、保護者懇談会などを通して、学習や学力の実態や就職状況、入試制度を周知徹底する。 	<ul style="list-style-type: none"> 学校自己評価アンケートの「進路に関する情報が適切にされている」の数値を上げる。(現状 R4年度 生徒95.3%、保護者85.4%) 3科合わせて国公立大合格者数が40名以上になっている。(現状 2年1月進研模試偏差値52～54(帝国)、実力診断B1以上(商業)が国公立大合格者の目安であり、現3年生は38名程度と予想される) 民間企業への就職希望者が100%就職できている。(現状 R4年度100%)
	生徒課	<ul style="list-style-type: none"> 学校内外での諸活動を通じて、生徒が豊かな人間性や社会人として必要な資質を身につけるための援助を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> TPOに応じた態度の醸成を通じて、公共心に富んだ社会人としての自立に必要な状況把握力などを向上させる。 エビデンスを明示した論理的な対話により、交通法規も含めたコンプライアンスの意識を高めさせる。 生徒会活動などの特別活動や部活動に、本校の定めた活動目標や方針に基づきながら効率的に取り組ませ、心身の健全な成長を促す。 	<ul style="list-style-type: none"> スカートなどの制服の着こなしや髪型などの身嗜みを整えられる生徒積極的に挨拶できる生徒が昨年度より増加している。 重大な交通違反や事故の件数が0となり、かつ学校自己評価アンケートにおける質問「先生はいじめや生活指導上の問題を見逃さずに対応している」「社会人としてのマナーやルールを学習する機会がある」の生徒の肯定的回答が90%以上になる。(昨年度 重傷を伴う事故0件、肯定的回答93.7%、81.6%) 学業優先の意識を持ちながら、特別活動や課外活動に能動的に参加できる生徒が増加している。 1及び3については、Google Workspace for Educationを使用したアンケートに対し、年度内に改善したと回答がそれぞれ60%を超えている。
	厚生課	<ul style="list-style-type: none"> 校内美化に力を入れ、教育環境の整備に努める。 生徒の心身の健全な成長を支援する。 	<ul style="list-style-type: none"> 教室環境を整備するとともに、整美委員会を中心に清掃状況をチェックし、校内各所の清掃を徹底する。 教職員が体調不良者への対応を適切に行うことができるよう、研修や情報共有の徹底する。 	<ul style="list-style-type: none"> 学校自己評価アンケートで「校内美化が図られ、落ち着いた教室環境が整っている」の教員と生徒の肯定的回答が上昇する。(R4年度 教員77.8%、生徒75.9%) 学校自己評価アンケートで「怪我や体調不良の場合に適切に対応してくれる」の生徒と保護者の肯定的回答が95%を維持する。(R4年度 生徒97.1%、保護者91.2%)
	図書課	<ul style="list-style-type: none"> 図書館を活用した探究活動の充実を図り、読書に親しむ態度を育てる。 視聴覚、情報処理関連機器の活用頻度を向上させる。 	<ul style="list-style-type: none"> 図書委員会活動の充実と、授業での図書館利用を促進し、読書への関心を深める。 継続した情報提供と機器の整備・保守により利便性を向上させる。 	<ul style="list-style-type: none"> 授業・CCT・LHRでの図書館利用時間が1年で150時間以上、貸出冊数が6,000冊を越える。(R4年度 191時間、6605冊) 3冊以上借りる生徒数が60%を超える。(R4年度 63%) ChromebookをはじめとするICT機器メンテナンスの最新情報提供を年に5回以上行う。
	教育相談室	<ul style="list-style-type: none"> 心に悩みを持つ生徒やその保護者が安心して相談できる環境の整備に努める。 	<ul style="list-style-type: none"> 「気づきシート」を積極的に活用し、不登校生徒や気になる生徒、保健室顔回利用者の情報を的確に把握する。また、生徒課とも情報共有を図りチームで対応できるようにする。 要支援と判断された保護者に対して、SCやSSW、外部機関と連携できるような積極的な情報提供に努める。 思春期相談の開催について、保護者へはメール配信で、生徒へはGoogleWorkspaceで周知する。 	<ul style="list-style-type: none"> 月に1回以上、情報共有のための会議を開く。提案された対応策については、担任等に迅速に伝達する。 月に1回以上は、相談室から学年団、生徒課と情報共有を行う。これにより休みがちな生徒・不登校生徒・保健室顔回利用者の情報が気づきシートに蓄積され学年の中で共有される。 ICTを通して周知することにより、学校自己評価アンケート「悩みを気軽に相談することができる」の肯定的割合を75%以上を維持する。(R4年度学校自己評価アンケート 生徒78.7%、保護者76.6%)
	普通科	<ul style="list-style-type: none"> キャリア教育の推進を通して、各学年の段階に応じ、人生設計の一部としての進路意識を持たせ、生徒一人一人の目標達成のために取り組む力をつけさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> 進路指導課・学年・担任・教科と連携し、LHR・CCT・担任面談を通じて進路(学習)への意識を高め、進学を見据えた学習活動の充実に向け働きかける。特に、1年次の文理選択LHRを通して将来を見据え2・3年時にぶれない選択をさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> 学年団・進路・教務課と連携して日程調整をして、夏休み前にLHRで科集会を持ち、文理選択を説明する。 学校自己評価アンケート「進路に関する情報が適切に提供されている」の項目のマイナス評価の割合が5%以下(R4年度4.9%)
	1年	<ul style="list-style-type: none"> 家庭学習習慣を定着させ、学習を中心に据えた基本的な生活習慣の定着を図る。その際Chromebook等のICTの効果的な活用を適宜行う。 部活動や学校行事等を通じて生徒の心身の健全な成長を支援する。 	<ul style="list-style-type: none"> 授業中心の学習スタイルを定着させ、週末課題等も活用し週あたり一日平均の家庭学習時間を3時間以上確保させる。 部活動や学校行事等への積極的な参加をうながす。 	<ul style="list-style-type: none"> 家庭学習時間の定着が図られ、週あたり一日平均の学習時間が3時間以上の割合が20%以上となっている(R4年度 14.6%) 学校自己評価アンケートにおいて、「文武両道をめざした高校生活を送ることができる。」の項目に肯定的に答える生徒の割合が90%以上になっている(R4年度86.1%)
2年	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の能力を最大限に引き出し、進路目標を実現するために、適切な進路指導を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 進路指導課と連携したタイムリーな進路情報の提供、個に応じた面談(保護者面談も含む)等の充実を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 学校自己評価アンケート「12. 進路に関する情報が適切に提供されている」「13. 進路について、担任や進路指導課の先生が相談ののってくれる」のそれぞれの項目が95%を超えている。(R4年度12(95.6%)13(92.4%)) 	
3年	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の進路実現に向けて適切な進路指導を行い、生徒の能力を最大限に引き出し、進路目標を実現させる。 	<ul style="list-style-type: none"> 細やかな面談を行い、適切な進路情報を提供・共有する。志望理由書の書き方など早めの指導を行う。 保護者・教員間の連携を密にし、多角的な指導体制を構築する。 	<ul style="list-style-type: none"> 学校自己評価アンケート「12進路に関する情報が適切に提供されている」「13進路について、担任や進路指導課の先生が相談ののってくれる」に対して全科生徒の肯定的評価が95%以上になっている。(R4年度2年生12:97.0% 13:95.5%) (R4年度3年生12:93.6% 13:97.0%) 普通科・国際情報科の90%が共通テストを受験する。(R4年度97%) 	

2	総務課	<ul style="list-style-type: none"> 「総合的な探究の時間」等の充実を通して生徒の地域貢献意識や自己肯定感を育む。 	<ul style="list-style-type: none"> 各科・課・学年・CCT運営委員会と協力し、生徒の活動が充実するよう、連携できる機関や人的資源を開拓するとともに生徒が多様な価値観や考えに触れることができる機会を提供する。 ルーブリックを用いながら活動と評価を連携させ、生徒がより主体的に各活動に取り組めるようCCT運営委員会や各教科と協力をしながらPBLの研究を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 学校自己評価アンケートにおいて「総合的な探究の時間」等の取り組みを通じて、自ら課題を見つけそれについて考え学ぼうとしていく力が身についた」が90%を超えている。[R4. 90.0% R3. 89.6%]
	学力向上委員会	<ul style="list-style-type: none"> 指導と評価の一体化について、教員同士で悩みや工夫を共有しやすい環境をつくる。 生徒の思考力、判断力、表現力を高め、知識・技能の習得及び学びに向かう力の育成に資する事例を収集する。 	<ul style="list-style-type: none"> 指導と評価の一体化やICT活用等をテーマとする相互授業参観を行う。 校内外で開催される公開授業や教員研修への積極的参加を呼びかける。 観点別評価に関する教員対象アンケートを実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> 本校教職員全員が相互授業参観を行う。(R4総括できていない。) 学校評価アンケート「授業の進め方等に工夫が見られ、分かりやすく充実した授業である。」生徒の肯定的回答が85%以上。(R4 83.8%)
	国情科	<ul style="list-style-type: none"> 4技能を意識した授業と生徒が主体的に課題を見つけ学ぶ授業を展開し留学生との交流会やイングリッシュキャンプなどの行事を通して異文化理解を深めさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> 主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業の評価と改善を行う。 授業や行事でChomebook等のICTを効果的に活用する。 各行事の活動を見直し、英語でのコミュニケーション能力を伸ばすことで、異文化理解を深めさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> 2年生のGTECの4技能トータルスコアの平均CEFR-JがA2-2以上の生徒が12名以上となる。(R4年度1年生7名) 行事や授業アンケートにおいて、「ICTを活用することで授業(行事)での英語理解が深まった。」と回答した生徒の割合が85%以上となる。(R4年度最終評価82%)
	商業科	<ul style="list-style-type: none"> ビジネス活動に関する専門的な学習を深め、関連する検定や資格を取得し、社会貢献できる人材を育てるとともに、新学習指導要領実施の検証及び継続的な取組みを進める。 	<ul style="list-style-type: none"> 地域の人的・物的資源を活用して、ビジネスマナーの向上や国内外の経済事情の把握、金融・銭教育(租税教育、商品開発を柱として)の充実、勤労精神や地域社会貢献に対する意識を持たせ、周知する。また、新しく導入された情報教育機器が利活用しやすい環境を整備する。 新学習指導要領実施に伴う検証と継続的な取組みとして、現行科目及び新科目における教材・教具及び指導法の準備及び研究を進める。また生徒一人一台端末を軸としたICT活用授業について、より効果的な研究と実践を進める。 	<ul style="list-style-type: none"> 金融教育(租税教育、商品開発)を柱として、ビジネスマナーや経済事情に関する講演会等の実施及び商品販売に関する地域社会貢献活動に満足度し、行われた活動を商業科の生徒に周知する。「社会人としてのマナー・ルールといった道徳的意識についての学習の機会がある」商業科の生徒において、90%を超える。(令和4年度 85.7%) インターネットに接続され、かつ様々な情報を処理するために必要なハードウェアやソフトウェアが整備されている。 新学習指導要領実施に伴う検証と継続的な取組みとして、旧科目及び新科目において、外部の情報を収集しながら具体的な教材・教具及び指導法の準備ができ、教員の意識も高揚し、実践に向けた準備が整う。 ICT活用授業については、科内で効果的な指導法について適宜情報共有し、生徒がICTを活用し、互いの考えを交換したり、共有したりする授業ができる教員が90%を超えている。
	1年	<ul style="list-style-type: none"> CCTにおける進路研究や探究活動また社会貢献活動等の様々な活動を通して社会性や規範意識を養い、自己肯定感を高める。 	<ul style="list-style-type: none"> 大学訪問や出前授業、CCT等においてChomebook等を活用して情報収集・分析を行い、学問や進路についての理解を深め、興味を広げていくとともに、自己の生き方について考えさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> 学校自己評価アンケートにおいて、「将来の進路や生き方について学習する機会がある」の項目に肯定的に答える生徒の割合が97%以上になっている(R4年度95.8%)。
	2年	<ul style="list-style-type: none"> 家庭での学習習慣を改善することで授業を充実させる。 	<ul style="list-style-type: none"> 家庭での学習時間1日平均180分を目標とし、授業内容の理解度、定着率をあげる。 	<ul style="list-style-type: none"> 学校自己評価アンケート「9. 授業の進め方等に工夫が見られ、分かりやすく充実した授業である」の項目が85%を超えている。(R4年度77.7%)
3年	<ul style="list-style-type: none"> Chomebook等のICT機器を効果的に利用することにより学習時間の増加を図り、生徒の学力向上を目指す。 	<ul style="list-style-type: none"> Chomebookによる課題配信、予習・復習の指導等を通して、家庭学習時間を確保させる。補習、土曜講座等への参加を促す。 	<ul style="list-style-type: none"> [普通科・国情科] 進研模試の国数英総合と5科総合の平均点偏差値がいずれも48.0以上になっている。(R4年度3学年 国数英総合49.2 5科総合48.0) 進研模試の偏差値50以上が国数英総合で 60人以上、5科総合で50人以上となっている。また60以上がどちらも4人以上となっている。(R4年度3学年国数英総合50以上84名60以上13名)(R4年度3学年5科総合50以上69名60以上10名) [商業科] 全商簿記実務検定受験者の1級合格者(最終)が50%、全商英語検定1級合格者(最終)が25%以上になっている。(2年時の合格率 簿記39.7% 英語7%) 	
3	総務課	<ul style="list-style-type: none"> 各科・課・教科・地域等との連携を深め、中学校に向けた広報活動の充実を図る。 		<ul style="list-style-type: none"> 実施後のアンケートにおいて「本校の教育活動についてよく理解できた」の項目についてそれぞれ70%を超えている。(R4. 79.4%, R3. 62.2%, R2. 未実施, R1. 69.1%)